

感染再拡大の防止に向けて

東京iCDC専門家ボード

座長 賀来満夫

感染の現状と優先すべき取り組み

○ 新規陽性者数の状況

2,520名

ピーク時(1/7)



316名

3/3 時点(速報値)

「7割以下に」とした減少のスピードが鈍化（いまだ第2波ピーク時相当）

⇒ 現在の対策を当分の間継続し、対応をさらに強化していく必要あり

<優先すべき取り組み>

- ・ リバウンドへの警戒と対応
- ・ 変異株への対応（約1.7倍と言われる伝播性）
- ・ ワクチン接種の推進
- ・ リスクコミュニケーションの推進

感染再拡大防止に向けての取り組み

※赤字は新たな取り組み・強化事項

○ リバウンドへの警戒と対応

- ・ 積極的疫学調査（遡り調査含む）の徹底による隠れた感染源の特定
(例) クラスター事例 等
- ・ スクリーニング検査の実施
- ・ 高齢者施設等に対する集中的検査の実施
- ・ 院内・施設内感染の防止（マニュアル等の徹底）

○ 変異株への対応

- ・ 水際対策の強化・徹底の継続を国へ要望
- ・ 変異株の積極的疫学調査の強化（TEIT、保健所）
- ・ ゲノム解析による実態把握と情報の収集解析・活用

○ ワクチン接種の推進

- ・ ワクチン接種の体制確保と医療従事者や高齢者等への接種の早期開始
- ・ ワクチンの相談センターや予約システム等の充実

○ リスクコミュニケーションの推進

- ・ 意識調査に基づく情報発信等による都民との一体感の醸成